

メタセコイア

(土屋中学校の樹)

<学校教育目標>

～ 夢に向かって ～

第3号

令和7年5月30日発行

さいたま市立土屋中学校

さいたま市西区土屋1766-1

TEL 048-622-4611

✉ tsuchiya-j@saitama-city.ed.jp

『心痛』

校長 小熊 誠

いよいよ、唯一学校全体で立向かう学校総合体育大会が5月30日(金)から本格的に始まります。文化部も夏には、コンクールや展示会等が迫ってきています。そこで、5月27日(火)には、壮行会が実施され、各部長からの強い意志と熱い思い、そして感謝の気持ちのこもった決意表明がありました。生徒会からも太鼓やのぼりを使用した、全校が一体となった応援エールもありました。いよいよ勝負です。保護者・地域の皆様、どうぞ土屋の生徒たちの活躍に御期待ください。



一方、5月～6月は心が悲鳴を上げやすい時期とも言われています。そこで、さいたま市では、6月を「いじめ撲滅強化月間」と定め、市をあげて子どもたちの心のケアにあたっています。土屋でも、「いじめ見逃しゼロ」を掲げ、学級毎に学級討議を行い、スローガンを決定したり、道徳で話し合ったりと、全校を挙げて取り組みます。その一環として6月10日(火)の朝礼では、私から以下の『心痛』という話をしたいと思います。私は、生徒たちには、「心の痛み」の分かる人であって欲しいと願っています。それが、私の教育の根幹にあると考えています。

骨折は誰の目にも分かります。だから足を骨折している人に誰も「走れ」とは言いません。しかし、心の痛みは誰にも見えません。だから「走れ」と言ってしまう人がいるかも知れません。でも走れないのに「走れ」と言われた人はどう感じるのでしょうか？自分でもどうして走れないのか分からない場合もあります。また例えば理由が分かり、「心が痛いので走れません」と言っても誰の目にも見えません。理由も分からず、理由を言っても分かってももらえず、「心の痛み」、『心痛』は、さらに奥深く進行していきます。皆の中にもそんな「痛み」を経験したことのある人もいるかもしれません。もしかしたら、皆の周りで、そんな「痛み」に苦しんでいる仲間に気が付いた人もいるかもしれません。普通、人は、自分の体の健康を心配し、体にチョットした違和感を覚えたら医師に相談したりします。また、癌のように知らないうちに体を蝕んでいく病もあります。そこで人は、定期的に健康診断を受け、その診断結果によっては、薬をいただいたり、治療に入ったりします。では、心の「痛み」、『心痛』は、どこで気がつき、どこに相談し、どこで治療すればいいのでしょうか？私は、その一つが家庭での会話や学校での先生や仲間との会話であり、毎日書いている「生活記録ノート」であり、定期的に行っている「アンケート」であり、「面談」であり、今毎朝取組んでいる「おはようメーター」であると考えています。これらを有効に使い、自分から自分のチョットした違和感に気が付き、SOSをだすことはとても大切です。もし皆がそんな心や体の違和感をチョットでも自覚したら、医師に相談するように、周りの誰かに相談することが大事になってきます。また、周りの仲間のそんな症状に気が付いたら、声掛けをしてあげる勇気も大事になってきます。皆にとって医師とは、身近にいる信頼できる大人であり、声掛けができるのは、信頼できる仲間だと思えます。相談することは決して恥ずかしいことではありません。「痛み」が増す前に、まずは自分から一歩踏み出してみてください。また、「痛み」をこらえている仲間に気が付いたら、背中を押してあげたり、声を掛けたりしてみてください。私たちは皆で相談しやすく、声の掛けやすい環境を創っていくことが必要です。特に仲間からの声掛けは、何よりの薬になるはずです。見えない敵『心痛』は「いじめの芽」にも変化していきます。この『心痛』と戦い、「いじめの芽」を撲滅していくには、予防と早期発見・早期治療が一番です。皆で、心と体のチョットした違和感を感じ取る感覚を研ぎ澄まし、仲間の「痛み」の分かる、お互いに思いやる心を大切にしていきましょう。

信頼できる大人とは、私たち教職員はもとより、保護者・地域の皆様です。私たちも生徒たちに信頼される大人、すなわち生徒たちを守る「絶対の守護神」となれるよう努力していきましょう。

希望の登校 笑顔の活動 満足の下校